

一般社団法人ふるさと楽舎（広島県広島市安佐北区）

# 耕作放棄地となった棚田を復活させ、 育てた米で復興の酒「大林千年」誕生

一般社団法人ふるさと楽舎

代表理事

秦野 英子

## 1. 広島市安佐北区の概要

広島市は、広島県西部に位置し、中国・四国地方で最大の人口を有する政令指定都市です。南部の中心市街地は大企業の支店や官公庁の出先機関が多く拠点を置く中国地方の中核都市ですが、南は瀬戸内海に面し、中心市街地を取り囲むように西部・北部・東部は丘陵地帯となっているなど、身近に海や山といった自然に親しむこともできます。

市域は、8区で構成されており、私たち一般社団法人ふるさと楽舎が活動する安佐北区は市の北東部に位置し、面積は市域の約4割を占めています。

近年は古くから商人のまちとして栄えてきた可部地域の発展が目覚ましく、平成29年3月にJR可部線が電化延伸したことを契機に、終着駅のあき亀山駅前には令和4年5月に広島市立北部医療センターが完成するなど、広島市北部及び近隣市町の中核として発展しています。

## 2. 活動開始の背景・経緯

当法人の活動拠点である大林地区桧山は、可部の中心市街地から車で約20分ほど北の山中にある集落で、平成26年8月20日の豪雨災害で被災した場所でもあります。被災後は過疎化及び高齢化に拍車がかかり、担い手不足から耕作放棄地となる棚田が増加していましたが、復興支援を契機に地域の抱える課題を知った若者有志が、美しい棚田を取り戻し地域を元気づけたいと活動を開始し、平成30年度には一般社団法人ふるさと楽舎を設立しました。



被災休耕田の復旧

## 3. 大林千年の誕生と活動の広がり

「1000年先も集落であり続けること」を合言葉に、地域外の若者と地域の住民が共に活性化策を検討し、地域再興ののろしとして最初に取り組んだのが日本酒づくりです。

収穫量不足や害虫被害に悩まされながらも、4年の歳月を経て日本酒の仕込みに必要な米の収穫量を確保し、復興の酒「大林千年」が誕生しました。その他にも棚田での花の種植イベント等を行っており、地域外に大林ファンを増やす活動を行っています。

豪雨災害復興支援にきていた広島大学ボランティアサークルの学生や地元大学生、自治会有志、地元の酒蔵、市役所職員等、地域内外から継続的に活動への参加があり、酒プロジェクトや自然体験活動には、市内の複数の大学から延べ300人が参加し、よそ者・若者との交流が地域に活力を生んでいます。



田植えの様子

また、都市に隣接する中山間地域である地区の強みを生かし、誰もが活躍できるフィールドとするため、令和3年度末には、地元農家とともに「休耕田彩生会」を立ち上げました。休耕田を整え、地域外の人たちを受け入れ、耕作や自然観察フィールドとして解放することで、新たな支援者・仲間を増やすことを計画しています。

## 4. 地元企業との協働

大林地区や近隣の国道183号線沿いには製造工場が多くあり、製造過程で大量の水を使用しています。

SDGsの時流もあり、工場間で地域課題解決の機運が生まれていましたが、当法人の活動がマスコミ等で周知され始めると、企業から水資源及び里山保全に関する活動への協力や視察の間合せが増加しました。

現在は、大林の里山の現状を知るためのウォーキング視察会、植樹及び里山保全活動等ができる場を大林で提供し里山保全を実践することが可能な体制づくりをサポートするよう計画が進んでいます。

## 5. 安定的な収入の確保に成功

大林千年は地域の酒蔵の協力を得て開発したため、既存の販売ルートを活用して地域外に販売することができ、安定的に活動資金を得ることのできる仕組みとなっています。

なお、令和3年度の米は最上級である一等米の評価を得ることができたため、今後は、酒用の米をつくる農家を増やし、酒づくりが地域の生業として安定するように計画しており、定住者獲得も期待できます。



販売される「大林千年」

## 6. 地域資源の活用

豪雨災害によって被害を受けた棚田を復活させ、棚田の美しさを活かすことを模索した結果、棚田で育てた米で復興の酒造りを行うという活動につながりました。



地元の酒蔵と酒造り

また、米の品種として地域で伝統的につくられてきた「ヒノヒカリ」を使い、収穫した米は、地域の神社の名前にちなんで「照日米（テルヒマイ）」と名づけるなど、地域にもともとあった地域資源を新たなブランドとして発信しています。



照日米

自然や文化を活かした活動も重視しています。

大林地区には、都市圏では珍しい野鳥が生息しているため、専門家を招いてその調査や観察会・自然体験活動を実施しています。

約400年前から続くと言われる盆踊りにも、酒づくりに参加している地域外の若者とともに、踊り手として参加し、その状況を発信しています。



熊谷踊り

## 7. 創意工夫と成果

私たちは、ピンチはチャンスに変えることができると考えて活動しています。

豪雨災害というピンチが地域外の若者と地域を結びつけ、地域の復興へと向かったように、耕作放棄地の増加というピンチも、その場を地域外の若者の思いを実現させることのできる場所として捉え直し、酒づくりという発想につなげることができました。

酒造りという提案は、地域の農家にとっては突飛な発想でしたが、ともに災害を乗り越えた絆があったため、当法人の挑戦を地域が受け入れ、大林千年の誕生へとつながりました。

また、害虫被害によって米の収量が少なく日本酒の醸造ができなかった時も、地元のビール醸造会社の協力で、米を使った地ビール「郷乃米麦酒」を制作することができ、大林ブランド初のお酒となりました。

今でも、大林千年と並んで地域に愛されるビールとなっています。



郷乃米麦酒

## 8. 他の活動団体との協働

当法人の活動により地域住民自らが地域課題解決に取り組む気運が醸成された結果、間伐材活用を目的とした「大林間伐材再生研究会」が発足しました。

豪雨災害時に山麓に流れ落ちる間伐材は、災害の被害拡大の要因として問題視されていますが、同会は間伐材を活用した商品を開発し、商品加工のために間伐材を山から搬出することで災害時に流れ落ちる間伐材の数を抑制し、被害を抑制する目的で活動しています。

また、間伐材の搬出技術を持った人材の育成や加工品販売による収入も期待できるため行政からも注目を浴びています。

当法人も協力し開催した第一回木と食の里まつりは、住民の手づくりイベントにも関わらず、約3,000人の来場があり大盛況となりました。



木と食の里まつり

その他にも、トヨタの協賛事業も開催しています。当法人の活動が注目され、今まで宮島等で開催されて

いた「TOYOTA SOCIAL FES!!2022」が、海を豊かにするための山の活動のフィールドとして大林地区桧山を舞台に継続的に開催されることとなりました。

棚田の草刈りを行い、コスモスの種を植える本イベントには募集定員以上の申込がありました。あいにく雨天による中止となったため関係者で種植えを行いました。開花に合わせて開催予定のイベントにはすでに多くの参加希望者がおり、大林地区のファンが確実に増加していることがわかります。



トヨタソーシャルフェス

## 9. 課題と展望

この活動は30年を一つの区切りと考えています。その第1期前期の目標であった「酒造り」という礎と他団体連携などの活動の種まきはできました。今後は、この礎に蒔いた種を芽吹かせ、花を咲かせることに軸足を移します。そのためには、より多くの人財の活動への加入が不可欠です。

大林地区桧山のみならず、大林地区は様々な魅力のある地域です。豊かな水を資源にした製造業の工場も多く、雇用の場があります。よそ者を受け入れる風土もあります。都市部から近い中山間地域という地の利があります。

これらの魅力を「兼業」「半農半X」の暮らし方を志向する世代に届け、大林のフィールドで「地に足をつけた暮らしを営む」人財を増やすこと。これこそが、私たちが目指す「大林千年の里づくり」です。